

(3) 指導の観点と考察

① 活動のイメージ化

反省用紙の活用

一か月の活動内容を  
見直し、反省用紙にそ  
の週の活動予定と毎日  
の反省を記述させるよ  
うにした。また、週末には週の反省  
をさせ、次週の計画を立てさせるよ  
うにした。

反省用紙を使うことにより、消極  
的な係の仕事が活性化し、積極的  
に活動に取り組む児童の姿が目立つよ  
うになった。

係活動実践の見学

他の学校の活動の様  
子をビデオで見せたり、  
話したりして、中学年

や五年生の活動の様子を実際に見学  
させることにより、自分たちの活動  
への刺激になるように配慮した。

他の係や学級の活動の様子を見学  
することで、いろいろな係のおもしろ  
いところや工夫しことを自分たち  
の係活動に取り入れたり、工夫した  
りして、別の係を作ったりするよう  
になった。

話し合いプリントの作成

各係で考え、工夫  
したことをプリント  
にまとめて、話し合  
いに入る二日前までに一

冊にまとめて配付した。各係に対し  
て役に立つ考えや楽しいイベントな  
どを提案できるようにしたのである  
が、他の係の仕事内容が分かるだけ

資料3 「係の内容を見直そう」活動計画

活動の内容	指導上の留意点	観点
○ 各係毎の反省	・今までの係の活動の反省をして、自分の係の仕事について、考えさせる。	① ③
○ 他の学年の係活動の様子	・他の学年の活動の様子を知り、自分の係の仕事と比べるようにして、係の仕事への意欲を高めさせる。	① ②
○ 係活動の事例収集	・他の学校の活動の様子を聞くことにより自分たちの係の活動へ生かすことができるように助言する。	① ②
○ 活動内容の見直し	・自分たちの話し合いを基に活動内容の見直しができるようにする。	① ③
○ 実践計画作成	・話し合いのベースとなる資料が作れ、それぞれの係の仕事をみんなで協力できる雰囲気をつくる。	①
1. 始めの言葉 2. 学級の歌 3. 話し合い ・各係の活動内容を説明 ・各係に対する質問 ・係の仕事に対し役に立つ意見	・各係で考えた活動内容を発表し、前の活動にどのような創意工夫をしたか分かるように助言する。 ・係に対する質問は内容に関するものを取り上げさせはれた質問に対して善処するように助言する。 ・工夫した活動内容を詳しく知り、各係の仕事に対して協力できるように助言する。 ・各自が各係に対して学校より良くする考えを出し合い、役に立つ考えを自分たちの係に生かすように繰り返させる。(方向の示唆)	③ ② ③
4. 先生のはなし	・めあてにそって、話し合いの様子や議長団などのよかったところを認めたり、ほめたりし、児童の意欲を増すようにする。(賞賛、励まし)	②
5. 反省	・今日の反省を各自にさせ、次に生かすようにする。	
6. 終わりの言葉		
○ 係活動の実践	・係の仕事の実践の様子をみんなに知らせるように係の新聞などを発行させる。 ・アンケート調査などを行い集会活動の実践計画などを自分たちの力でできるようにさせる。	①



真剣な表情で話し合い

③ 活動を認め合う場の設定

活動内での認め合い

児童同士が互いに認め合ったり励まし合ったりする場面の設定に努めた結果、友達の意見に拍手をしたり、活動内容をほめるような意見やより良い内容にしようとする意見を出したりするようになった。実践活動においては、よい活動をした係に対し感謝したりする姿が見られるようになった。

五、成果と今後の課題

○ 成果

- (1) 児童の実態に合った係活動を組織し、イメージ化を図る事前指導をていねいに行ったことなどから児童の自発的、自主的な活動が見られるようになった。
- (2) 児童同士が互いに認め合い、励まし合うようになり、学級・学校内に活気がみなぎっている。
- (3) 教師の指導が指示的なものから援助的な指導へと改善されてきた。

○ 今後の課題

- (1) 学級の係活動で培われた諸能力を、児童会やその他の集団活動にどう発揮させていくか、その手だてと援助指導のあり方を究明する。
- (2) 低学年においては、賞状やシールなどによる意欲づけだけでなく「活動が楽しいから」「役に立ててうれしいから」と、積極的に取り組もうとする意識を育てる。

② 活動における教師のかかわり

活動への援助

高学年の話し合い活動や実践活動では、教師は、児童の活動を見守ることが大事であると思われる。教師のかかわり方として

- ・活動する時間や場を提供する。
- ・活動が停滞し、消極的になったときは、児童の相談にのり、適切な資料を提供したり、活動の方向を示唆したりする。
- ・児童の活動を朝や帰りの会などで、全員の前で認めてやる。

以上の三点に心がけた。

でなく、自分の係に対する考えを生かせるようになり、係活動への関心も高まってきた。